



東巨

債主

深松彦源
樂松彦源

一な九や月なりきり小ぬか
屋乃茶ハほとやハるや月の容
裏門を志めても暮ぬ紅糸外
朝氣やすくね枝ハ風きりぬ
十の喜又高系川も秋さる
分る二百十日もさてるめ

六ノア

耳多くと隣又寂りきさの秋
蛸ヤ一抱りる神の秋
老ねよしく年今日のみ逢

逸九

裏の子のせえて母、祐よりは
石の牝の豫研喜ヤ略のよつ
月の成る竹の風情や初り
年々まを足せり子やまきり
落るる大つあまをりりり

逸之
翠鳳
東五

抽

蟋蟀鳴延し交り力の脚
月秘て後をく一の鳴るてゆく

有権
判者
難巢

瑞池
市遊
雪貢
連鳥
松蔭
清耕

深松居源
松居源

東家子白

續

東巨

七
上
六



遊松菴評

寅八月分

天 六五柳埜子 地 六五成章 人 五〇門柳

畚外 白輪坊子月 柳谷 運倉坊 花 曉

花 五 点 ノ ア

日月の戸を力の眠くや虫の声
 昔のむねをたし 後の月
 片白の月を招くや花鳥
 白鳥や松葉の先よりつ
 かくさきに赤く石の乱拍子
 花くまはる夕日や花すき
 虫鳴や村の明き家のまうく
 母の赤石ハ耳よこころり
 老の身の後ま来にり麻の
 ちと授と土まの例や虫のこ
 こびくはあちけのやその花
 もる者の耳よこころの夜す
 虫くや延戸をもる灯の細り
 力のあて我れも赤きぬさ
 力くくく麻淋しひは
 果をつく者のまぬるき石

秀逸ノア

桃水 白雅 門柳 子月 八石 龜石 吞好 松君 白輪坊 全谷 詔谷 臨池 梓亮

きき夜や秋の夜もる妻心
一所目野山の秋や雁来宿
山勢勢は露の冷り麻の声

六下ノア

麻野や雨はぬるある院袋
野の果ハ堀焼畑り
引女はれとろノ花
朝は約種ゆるとヤ秋の夕
夕暮や麻敷はうらる短の焚火

深松菴評

天六五、ミリ地六五四松隨人の五、子月

番外瑠池万秋逸之竹雅三津人

花五五ノア

蚊の世話をするてんてんハ夜更夫
日更の戸を力の取くヤ虫の声
朝更や窓の日又麻の相の枝
夕紅葉遠く人夜のり母は思
所目のね目あきノ菊の香と

テテテ
挑全水
羽負子
深翠旭

馬泉石
盛山

テ全
柳堤子
谷成
成章丸

秋や雨はぬるある院袋
野の果ハ堀焼畑り
引女はれとろノ花
朝は約種ゆるとヤ秋の夕
夕暮や麻敷はうらる短の焚火

秀逸ノア

秋夜もあきけの
静松
翠白
意
護
朗

六下ノア

市静松
市静松
翠白
意
護
朗

子月
三池
盛山
万秋
市松
白輪
竹雅
三津人
美平丸
子月

淋しきも権才は有りて秋の種 ホヤシ
分列も力もとらるる今宵 カレ
又雨のつくほど淋し秋の山 カレ
雨たぬは夜更の音を夢よ カレ

実のて
住月
童隨
松隨

痛う病を八時を救ふ夜更 補
船更や幽の言さ 舟 上り
船更や山 山 上り
菊 菊 上り
平河 平河 上り

九年
拍子
翠友
翠樹

拾ひ 拾ひ 上り
夕言 夕言 上り
空合 空合 上り

授書
逸々
東巨

抽

落さえて今更の 楽評

有推

小夜 判者

懸巢



深松居深
乐松居深

景季白

俊重

東巨

秀逸

きふ身の精ききまゐて老まらり
_テ 廊一曉
_テ 孫之
_テ 庭樹
_テ 今花
_テ 雪負

六下

降る中又埃りの足て夏の雨
_テ 庭樹
_テ 今花

紙燭しをきりて居るや樹の穴
_補 双
_補 拓子
_補 菊之
_補 東巨

干瓜や地赤込てある舟
_判 者
_判 有推
_判 然棠

風たる力の復

油

余評

補双

テ庭樹

テ今花

テ廊一曉

テ孫之

テ庭樹

テ雪負

客

夜の舟

梅の穴

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟

花の舟